

2012年度（平成24年度） 事業報告書

自 2012年4月 1日
至 2013年3月31日

I 概 況

II 事業報告

III 業務管理

公益財団法人政治経済研究所

I 概況

当法人は、公益法人制度改革にともない2011年10月5日に公益移行認定書の交付となり、10月11日の設立登記をもって公益財団法人政治経済研究所として出発している。新法人として2年目の2012年度(平成24年度)は、新しい公益法人として1年を通して事業を行う本格的な事業展開開始年度であった。

昨年度に当法人は設立65周年、附属施設の東京大空襲・戦災資料センターも開館10周年を迎える節目の年を迎え、それに伴う特別企画等を実施してきた。もちろん実施した特別企画等は学術・学問研究を基礎として定款第3条の「政治・経済・社会・文化の向上発展に寄与することを目的とする」公益法人としての公益目的事業の展開でもあった。

東日本大震災によって顕在化した戦後日本の国土政策、エネルギー政策等の問題については学術研究機関の役割として政策提言を行うべく2011年度に特別研究プロジェクトチームを立ち上げ、2012年度は研究費の重点配賦によって継続発展させた。その外にも当法人が発行している、『政経研究』などの学術雑誌での特集企画あるいは公開研究会などの方法で学術的な情報も広く社会に対して発信してきた。

当法人は公益法人制度改革の中で特例民法法人から公益法人へと移行認定され、公益財団法人として出発したが、これによって当法人が民間の非営利セクターの一翼として位置づけられたことは間違いないであろう。今後新しい「国家と社会」の関係構築を目指して民間非営利組織の統一的制度について議論がなされることも予想される。当法人では、2012年度に経済学、政治学、哲学、歴史学等、当法人の特色でもある人文・社会の隣接諸科学を動員して総合科学的に「公共」概念の再検討を行い、当法人の主催する公開研究会や刊行物でその学術的成果を広く社会に発信することを試みてきた。

以上のように当法人にとって節目の年となった2012年度は特別企画、震災対応、「公共」概念や民間非営利組織の役割の再検討等を行ってきたが、これらは民間学術研究機関としての当法人の特色を活かした事業であり、公益法人として展開した公益目的事業であった。その意味でも、2012年度に当法人が実施した公益目的事業は充実した内容であることを自負している。

以下、当法人が昨年度中に実施した事業内容の具体的な内容である。

II 事業報告

1. 公益目的事業 I (公 I)

(1) 学術研究の奨励

当法人は、研究員の創造的研究奨励のため、民間学術機関としての当法人の調査・研究能力の質的向上のため研究員が企画実施するプロジェクト研究および個人研究に研究費の配

賦を実施した、また、東日本大震災直後から対応のプロジェクトを立ち上げ、公益法人としての社会的役割を果たすべく今年度も継続した。2012年度(配賦期間2012年8月1日～2013年7月31日)研究費を配賦した研究テーマと研究員は以下の通りである。

①特別プロジェクト

テーマ：東京湾臨海地域における液状化災害による多面的・複合的被害と対応にみる地域的に差異の実態とその生成構造に関する研究

研究代表：岩見良太郎

②プロジェクト研究

Aテーマ：異文化との対話と共生

研究代表：北村実

Bテーマ：原子力に依存しない社会の構築をめぐる諸課題に関する研究
—おもに憲法および国際法の視点からの考察—

研究代表：浦田賢治

Cテーマ：環境・廃棄物・エネルギー問題の研究

研究代表：野口邦和

Dテーマ：IT革命・金融化・グローバル化と現代資本主義の変化

研究代表：小谷崇

Eテーマ：地域活性化のための非営利組織の運営方法に関する研究

研究代表：山口不二夫

③個人研究

Aテーマ：旧東亜研究所の調査報告書を含む全出版物の調査・整備

研究員：土岐島雄

Bテーマ：国立公文書館「旧(財)写真協会撮影・戦中写真(原版30万枚)」、国立公文書館「旧日本交通公社寄贈ネガフィルム(9万枚)」からの戦災・空襲関係者の写真調査・取得

研究員：土岐島雄

Cテーマ：昭和初期における農本主義運動の結集と分裂に関する研究

研究員：渡辺新

④特定研究

テーマ：大島慶一郎関係資料の調査・整理・目録作成

研究代表：鬼嶋淳

⑤科学研究費助成事業

- ・研究課題名 戦争末期の国策報道写真資料の歴史学的研究
—国策写真隊と東方社を中心に—

研究代表者 山辺昌彦

- ・研究課題名 東京大空襲と関東大震災の救援活動に関する比較災害史的研究

代表研究者 青木哲夫

研究課題名 1930年代トルコ共和国における公定歴史学の研究

(2)研究成果の公表と刊行物の配付

民間学術機関としての当法人の調査研究事業及び当法人の研究員の研究活動は次のような刊行物を通じてその成果の公表に努めた。また、当法人内での審査通過を前提とするが、学術発展のために広く研究者に研究成果公表の媒体としての利用機会を開いている。

①『政経研究』（年2回発行）

当法人における研究成果の掲載はもちろん、質の高い学術論文を掲載すべく広く研究者に研究成果投稿の場を提供することに努めた。そして、日本や世界の抱える課題解決のため、最先端の学会動向に対応する企画編集、第一線で活躍する研究者の寄稿に努めた。なお、東日本大震災に対応した、臨時連載特集「東日本大災害問題」も継続した。2012年度発刊の各号の内容は以下の通りである。

第98号（2012年6月）156ページ

【特別論文】

政治経済研究所設立史

——いま、政経研の設立過程をふり返る

渡辺新

【臨時連載特集 東日本大災害問題(2)】

東日本大震災発生後1年間における金融上の対策

——金融機関の被災中小企業向け貸出を中心として

齊藤壽彦

フクシマと「オキュパイ・ウォールストリート」運動

——2011年世界各地の「憤り」のなかで位置づける

後藤宣代

【論文】

21世紀型世界経済危機の構造とその行方

建部正義

震災復興と財政再建は0.1%百年国債の日銀引き受けで

岩下有司

今、知らなければならないこと

——被曝の被害と防護をめぐる“科学リテラシー”について

寺内衛・寺内かえで

マルクス物象化論の3つの次元

佐々木隆治

日本社会の国際政治意識の変容

——テキストマイニングによる多面的検証

藤田泰昌

【報告】

2011年および2012年夏の電力需給評価と今後有効な節電対策

歌川学

NHKアーカイブスに見る「平和のための博物館」・「平和のための戦争展」

山辺昌彦

【書評】

21世紀社会論研究委員会編『21世紀社会の将来像と道筋』

八尾信光

第99号（2012年12月）112ページ

【巻頭言】

中小企業研究はラッキー

相田利雄

【臨時連載特集 東日本大災害問題(3)】

原発をめぐる科学・技術と倫理

北村実

【論文】

原水爆禁止運動の分裂

——ソ連核実験再開から第8回世界大会まで（1961.9～1962.8）

青木哲夫

サービス部門価値生産説の論拠

——有用効果生産説と労働対象不在説

飯盛信男

対人サービス労働における熟練の問題について

阿部浩之

IPO時の過小値付け現象とユニバーサルバンク

——ドイツの株式市場に関する分析から

三田村智

労働価値論と弁証法的唯物論

大久保亮治

【特別寄稿】

ネガ新発見 番組への道程

片山厚志

【評論】

近経の原発危機論への原理的批判が迫る理論上の諸問題

大西広

【書評】

森章著『現代ロシアの企業会計—会計・監査・税務—』

山口孝

②『政経研究時報』（年4回発行）

当法人は公益法人への移行認定を機に「公益」とは、公益法人とは、民間非営利組織とは何かについて検討を開始し、その一環として『政経研究時報』を明確な意図をもって編集し、問題提起的な論稿の掲載に努め、その成果を他の公益目的事業（公会研究会等）にも繋げていった。また、当法人の事業内容を案内するため、そして公益法人としての公

開制という観点から「研究所の動向」欄の充実に努めた。2012年度発刊の各号の内容は以下の通りである。

No.16-1(2012年7月)

民から公へ

鶴田満彦

構造改革を補完する「新しい公」

——その3つの昨日

岩見良太郎

研究所の動向(4月～6月)

No.16-2(2012年10月)

民間非営利組織の経営分析

山口不二夫

財務的改正からみた公益法人改革の問題点

松田真由美

政治経済研究所特別展示記念講演会「私と政経研、そして学問」を聴いて

畷田修

研究所の動向(7～9月)

2012年度研究費配賦

No.16-3(2013年3月)

「新しい公共」とは何か

北村実

スティグリッツが「アベノミックス」を評価した意味

森史朗

アジアへのまなざし—台湾で考えたこと

合田寛

研究所の動向(2012年10月～2013年3月)

③『中小企業問題』(年3回)

東京中小企業問題研究室は、中小企業、地域経済をめぐる話題、問題点を分析・検討し、広く産業界に提供していくことに努め、研究・情報提供誌として『中小企業問題』を発行した。

No.136 2012年5月

中小企業憲章も理念を生かした震災復興と日本経済ビジョン

杉村征郎

【対談】民主党の変節と「社会保障・税の一体改革」の正体

関本秀治

黒川功

原発・自然エネルギーを考える—「3.11」から一年余に当って

藤井石根

大阪中小企業振興基本条例の制定の経過とその意義

山浜光一

No.137 2012年9月

「中小企業憲章推進月間」の成果と教訓

国吉昌晴

「2013年度国の政策に対する中小企業家の要望・提言」について

瓜田靖

岐路に立つ欧州統合

—社会的市場経済VS新自由主義、あるいは第三の道?—

高田太久吉

「新たな成長期」を歩み始めたコンビニ・フランチャイズ

—業界健全化へ、歪みをただす運動を地域から

上田忠義

No.138 2013年1月

日本経済の現状と今年のゆくえ

今宮謙二

経営環境改善運動と愛知県中小企業振興基本条例

内輪博之

【座談会】「富山県中小企業振興・人材育成基本条例」制定の取り組みと今後の課題

森田昌孝/新村博明/天野修一/近江清

最近の情勢と税制の基本問題

関本秀治

④Seikeiken Research Paper Series

本研究所のSeikeiken Research Paper Seriesは原稿枚数に制限を設けず、当法人研究員の研究成果公表のため随時刊行している。また、質の高い研究成果に対しては研究員以外の外侮の研究者にも広く掲載機会を開いている。2012年度発刊の各号の内容は以下の通りである。

Seikeiken Research Paper SeriesNo.20(2012年11月)

世界米市場の統計整理1990～2009

—TPP参加・国内農業再編検討のための基礎作業—

石川啓雅

Seikeiken Research Paper SeriesNo.21(2012年10月)

2011年度特別プロジェクト研究報告書

東京湾岸地域における臨海部開発と液状化災害に関する研究

公益財団法人政治経済研究所液状化問題研究会

⑤企画出版

本研究所研究員によってアンガス・マディソンの『世界経済史概観』の翻訳を岩波書店から発行するための準備をすすめた。

(3)調査研究の社会的還元事業

①公開研究会

国内の社会経済問題のみならず国際問題も視野に入れ、有識者や報道各社にタイムリーな課題の解説を提供していくことに努めた。とくに今年度は、当法人の刊行物で問題提起してきた「公益」の問題を「公共」概念の再検討と題してシンポジウム形式で開催した。2012年度に開催した公会研究会は以下の通りである。

2012年5月24日

我が国のグリーン・ツーリズムに関する経過と課題

井上和衛

2012年7月26日

岐路に立つ欧州統合

——社会的市場経済と新自由主義

高田太久吉

2013年2月21日

「公共」概念の再検討

—「新しい公共」とは何か！ 公益法人・NPOとは何か！—

鶴田満彦/岩見良太郎/司会・北村実

②各研究会

当法人の各研究室が定例的に開催している研究会は当法人内の研究員のみならず、広く一般に参加の機会を開いている。2012年度に開催された研究会は以下の通りである。

現代経済研究室 定例研究会

2012年4月3日

日本農業の歴史的な構造変化と今後の展望

笛木昭

2013年2月20日

タックスヘイブンをグローバル資本主義の聖域

合田寛

環境・廃棄物問題研究会 研究例会

2012年5月12日

福島原発事故と放射能汚染

野口邦和

セラフィールドの歴史と現状

松田真由美

六ヶ所再処理工場について

舘野淳

大島社会・文化研究室 定例研究会

2012年5月23日

欧米人の目に映った近世日本

北村実

2012年7月25日

オバマ大統領と正義の戦争

——アメリカ社会における戦争の文化

北村治

2012年9月19日

諸民族の音楽と音楽産業からの侵蝕

小島令子

2012年11月21日

ポスト3.11における社会運動の意義と限界

—グローバル・インパクトとアナーキズム・モーメントをめぐって

北村浩

2013年1月23日

幕末日本の社会と生活

北村実

③特別展示

2012年6月27日～7月22日に公益法人移行認定・政経研設立65周年を記念して「政治経済研究所設立構想の真実」—学術的発見「まぼろし」の国会図書館構想に迫る!!—と題する特別展示を開催した。東京大空襲・戦災資料センターという展示施設を擁する当法人ならではの企画であり、当法人が所有する資料の一般公開に努めた。なお、展示資料は当法人の設立期に関わるものであるが、当法人に関する特殊個別的なものではなく、戦前戦時に設立された国策調査機関が戦後にどう展開するのかという一般的な課題も抱えている。また、展示資料の整理中に政治経済研究所を附属研究所にするという国会図書館設立構想が発掘され、展示資料として一般公開した。

④図書資料の整備

政経65年史編纂にともない、当法人の前身となる東亜研究所および政治経済研究所関係資料・図書の収集・整理を図り、東京大空襲・戦災資料センターも含め、必要な資料や情報を必要な人に的確に案内するレファレンスサービスの準備をすすめた。とりわけ「③特別展示」以降は研究者（大学院生を含む）からの問合せに対応してレファレンスサービスを実施した。

(4)受託事業

当法人では中央官庁、地方自治体などからの社会経済調査、企業からの経営分析など多くの受託事業をこなしてきた。受託事業はその事業を通じて若手研究者の要請、学術研究

の発展など公益目的事業になり得るものであり、また当法人の財政基盤を強固にするものでもあり、受託事業の充実に努めてきた。

2. 公益目的事業Ⅱ（公Ⅱ）

公益目的事業Ⅱの付属東京大空襲・戦災資料センターについて、2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)の事業報告は以下の通りである。

(1) 調査研究事業

今年度は以下の5つの研究プロジェクトにより、研究を進めた。
外部資金内部監査を2012年4月26日に実施した。

①東京大空襲体験の記録化と戦争展示

収集した体験記について、東京空襲体験記のデータベース作成を終了した。さらに、新に提供された体験記について「東京空襲体験記データベース」に追加した。

博物館などの戦争展示の調査を継続し、以下の博物館などの展示について山辺昌彦が訪問調査をし、その成果の一部を平和のための博物館・市民ネットワークのニュース原稿とともに、10月に京都の立命館大学国際平和ミュージアムで開かれた「平和のための博物館・市民ネットワークの第12回全国交流会」での報告「平和のための博物館における15年戦争関係の近年の取り組みについて」に盛り込んだ。

- 2012年4月10日 昭和館常設展
- 2012年4月13日 豊島区立郷土資料館「豊島の空襲2」
- 2012年5月7日 三鷹市教育センター「地中に埋もれていた『戦争』展」
- 2012年5月17日 大阪人権博物館企画展 沖縄復帰40年「1972年5月15日・沖縄」
- 2012年5月17日 姫路市平和資料館春季企画展「子どもと戦争」
- 2012年5月18日 水平社博物館第15回特別展「水平社運動・部落解放運動90年の歴史」
- 2012年5月18日 滋賀県平和祈念館常設展 第1回特別展示「群像―戦時を生きた人びと」
- 2012年5月19日 立命館大学国際平和ミュージアム春季特別展「放射能と人類の未来」
- 2012年5月23日 東村山ふるさと歴史館企画展「町の記録が語る戦時中の東村山」
- 2012年5月23日 世田谷文学館「地上最大の手塚治虫」展
- 2012年5月25日 千代田区立日比谷図書文化館特別展「報道写真とデザインの父 名取洋之助― 日本工房と名取学校」
- 2012年6月8日 明治大学図書館「城市郎展」
- 2012年6月8日 文京ふるさと歴史館 常設展
- 2012年6月8日 東洋学園史料室「最後の旧制高校 東洋高等学校―教養教育への挑戦」
- 2012年6月20日 横須賀美術館「アメリカ美術を変えた日本人 国吉康雄展」
- 2012年6月24日 長野県立歴史館春季企画展「三つの大日向をたどる 長野県の満州移民」

- 2012年6月28日 江戸東京博物館 常設展
- 2012年6月30日 岡山市デジタルミュージアム企画展「第35回岡山戦災の記録と写真展」
- 2012年7月1日 広島平和記念資料館企画展「広島、1945—写真が伝える原爆被害」
- 2012年7月1日 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展「しまつてはいけない記憶—家族への思い」
- 2012年7月1日 兵士・庶民の戦争資料館 常設展
- 2012年7月2日 宮崎県総合博物館 常設展
- 2012年7月2日 宮崎県平和祈念資料展示室 常設展
- 2012年7月3日 福岡市博物館部門別 1 歴史展示室「戦争とわたしたちのくらし21」
- 2012年7月13日 藤枝市郷土博物館企画展「戦時中の暮らしと遊び」
- 2012年7月13日 富士市立博物館分館富士市歴史民俗資料館「戦争とくらし—平和資料コーナー」
- 2012年7月13日 静岡平和資料センター企画展「空からの戦争」
- 2012年7月15日 パルテノン多摩歴史ミュージアム企画展「多摩に疎開してきた子どもたち」
- 2012年7月15日 立川市歴史民俗資料館企画展「多摩地区と我が家の戦争・戦後の記録」
- 2012年7月15日 八王子市郷土資料館コーナー展「戦争と人々の生活」
- 2012年7月15日 福生市郷土資料室企画展示「平和のための戦争資料展」
- 2012年7月18日 高麗博物館「特別企画展『韓国併合』100年と在日韓国・朝鮮人(後編)」
- 2012年7月18日 世田谷美術館「村山知義の宇宙—すべての僕が沸騰する」
- 2012年7月20日 千代田区立日比谷図書文化館文化財企画展「東京—その復興の歴史」
- 2012年7月20日 「緑と水」の市民カレッジ みどりの i プラザ企画展「東京の緑をつくった偉人たち—明治草創期から昭和東京緑地計画まで」
- 2012年7月21日 埼玉県平和資料館テーマ展「昭和20年の夏休み—ある少女の見た戦争」
- 2012年7月28日 昭和館 特別企画展「帰還への想い—銃後の願いと千人針」
- 2012年7月28日 しょうけい館 夏の企画展「軍医が語る戦時救護」
- 2012年7月28日 豊島区立郷土資料館 夏の収蔵資料展・学童疎開展ほか&第7回新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館協力展示・藤本東一良展
- 2012年8月1日 神代植物公園「災いを乗り越えた植物たち」
- 2012年8月1日 中野区立歴史民俗資料館企画展「中島菊夫と中野の子どもたち」
- 2012年8月4日 浅井歴史民俗資料館企画展「第10回 終戦記念展」
- 2012年8月4日 栗東歴史民俗博物館 特集展示「平和のいしずえ2012—描かれた戦争」
- 2012年8月5日 徳島県立博物館 部門展示「兵士たちの戦争」
- 2012年8月6日 箕面市立郷土資料館企画展示「戦時生活資料展」
- 2012年8月6日 南丹市立文化博物館と南丹市立日吉町郷土資料館 夏期企画展「戦争と南丹市」
- 2012年8月7日 大山崎町歴史資料館「第14回平和のいしずえ展」
- 2012年8月7日 和歌山城天守閣企画展「空襲前後の和歌山城」

- 2012年8月7日 和歌山市立博物館 コーナー展示「戦時下の和歌山」
- 2012年8月15日 ユニモト主催中野ZERO「戦後70年の時を経て発見された戦時機密資料
(兵事資料)」
- 2012年8月17日 蕨市歴史民俗資料館 第23回平和祈念展「忘れ得ぬあの時―戦中戦
後の暮らし」
- 2012年8月28日 長野県立歴史館 夏季展「阿智村ポスターが語る戦争と宣伝」
- 2012年8月28日 松本市立博物館「戦争と平和―松本に來た特攻隊」
- 2012年8月28日 旧開智学校「戦時下の子どもたち―開智国民学校の資料を中心に」
- 2012年9月1日 川崎市市民ミュージアム「濱谷浩写真展」 マンスリー展示「隣組
の歴史」
- 2012年9月1日 横浜市史資料室 展示会「占領軍のいた街―戦後横浜の出発」
- 2012年9月1日 日本郵船歴史博物館企画展「日米交換船とその時代」
- 2012年9月4日 仙台市歴史民俗資料館企画展「戦争と庶民の暮らし」
- 2012年9月6日 長岡戦災資料館 常設展
- 2012年9月7日 下町風俗資料館2012年度特別展「関東大震災と復興の時代」
- 2012年9月8日 女たちの戦争と平和資料館第10回特別展「軍隊は女性を守らない―
沖縄の日本軍慰安所と米軍の性暴力」
- 2012年9月12日 復興記念館 写真展「関東大震災と東京の復興」
- 2012年9月13日 高麗博物館「植民地支配を考える―巨大な監獄、植民地に生きる」
- 2012年9月14日 東京都美術館企画展「東京都美術館ものがたり」展
- 2012年9月20日 江戸東京博物館 常設展
- 2012年10月1日 上野動物園
- 2012年10月11日 姫路市平和資料館 秋季企画展「本土空襲と手柄山慰霊塔」
- 2012年10月11日 岡山シティミュージアム 岡山空襲 展示室
- 2012年10月12日 ピースおおさか 「ピースおおさか収蔵品展Ⅱ」
- 2012年10月12日 吹田市立平和祈念資料館 「常設展」オープニング企画展「戦争と
動物園
- 2012年10月12日 京都大学総合博物館 「大学は宝箱！ - 京の大学ミュージアム収蔵
品展」
- 2012年10月13日 立命館大学国際平和ミュージアム 特別展「世界報道写真展2012」
- 2012年10月28日 立命館大学国際平和ミュージアム特別展「未完の作品／永遠のはじ
まり」
- 2012年11月15日 憲政記念館2012年特別展「昭和、その動乱の時代―議会政治の危機
から再生へ」
- 2012年11月28日 世田谷美術館「生誕100年松本竣介展」
- 2012年11月28日 明治大学平和教育登戸研究所資料館第3回企画展「キャンパスに残
っていた偽札印刷工場」
- 2012年12月13日 三康図書館「発禁本と閲覧禁止図書」
- 2013年2月27日 豊島区立熊谷守一美術館「寺田政明展―発芽する絵画」
- 2013年2月28日 日本女子大学成瀬記念館「故郷を愛す、国を愛す、世界を愛す―上
代タノ展」
- 2013年2月28日 石神井公園ふるさと文化館特別展「鉄腕アトム放送50周年記念 ア

- トムが飛んだ日」
- 2013年3月3日 千代田区役所「東京大空襲展」
- 2013年3月3日 「第23回東京都平和の日記念東京空襲資料展」於江戸東京博物館
- 2013年3月8日 「東京大空襲資料展」於浅草公会堂
- 2013年3月14日 墨田区立緑図書館「すみだと災害資料展－戦災・震災・水」・「ミニ文学展－災害とすみだゆかりの文学者」
- 2013年3月15日 群馬県立近代美術館「破壊された都市の肖像 ギルニカ、ロッテルダム、東京・・・」
- 2013年3月17日 全国疎開学童連絡協議会主催「第8回学童疎開展」於品川歴史館
- 2013年3月17日 川崎市平和館「川崎大空襲記録展」
- 2013年3月17日 武蔵村山市立歴史民俗資料館ミニ企画展「武蔵村山の戦争資料」
- 2013年3月21日 しょうけい館（戦傷病者史料館）「戦中・戦後の戦病者～二度の除隊を経て 花森安治のあゆみ」
- 2013年3月21日 昭和館特別企画展「生誕100周年・没後30周年記念 中原淳一の生きた戦中・戦後－少女像にこめた夢と憧れ」
- 2013年3月26日 早稲田大学大学史資料センター企画展「ペンから剣へ－学徒出陣70年」
- 2013年3月26日 早稲田大学演劇博物館企画展示「佐野碩と世界演劇－日本・ロシア・メキシコ “芸術は民衆のものだ”－」展
- 2013年3月27日 すみだ郷土文化資料館企画展「描かれた戦争孤児－孤児たちの心と表現」展
- 2013年3月28日 江戸東京たてももの園「たてももの園と建築家たち」、「高橋是清邸と二・二六事件」

②東京大空襲と関東大震災の救援活動の比較研究(科学研究費助成事業「科学研究費補助金(基盤研究(C))」)

「都内戦災殉難者霊名簿」のデータベースの作成について、表記の統一と原本校正をした。被災地図の基図となる35区図を制作した。

以下の研究会を開催し、調査を実施した。

- 第16回研究会 2012年4月4日
- 第17回研究会 2012年5月9日
- 第18回研究会 2012年6月7日
- 第19回研究会 2012年7月12日
- 第20回研究会 2012年8月8日
- 第21回研究会 2012年9月5日
- 第22回研究会 2012年10月17日
- 第23回研究会 2012年11月7日
- 第24回研究会 2012年12月6日
- 第25回研究会 2013年1月17日
- 第26回研究会 2013年2月13日

第27回研究会 2013年3月20日

慰霊堂調査 2012年10月9日

③東京大空襲証言の映像化と時空間マップソフトウェアの応用によるその展示・活用方法に関する研究(トヨタ財団研究助成)

東京大空襲証言の撮影を続けたが、作品1本「ある主婦の語りー空襲を生きて」を制作し、「東京大空襲を語り継ぐつどいー東京大空襲・戦災資料センター 開館11周年」で公開した。時空間マップについては、展示場での提供装置を設置し、地図や載せるデータの作成を進めた。

以下の研究会を開催した。

2012年4月27日

2012年5月27日

2012年6月30日

2012年7月27日

2012年8月26日

2012年9月26日

2012年10月22日

2013年1月15日

④放送における「空襲」認識の歴史学的研究(NHKアーカイブストライアル研究)

山辺昌彦担当テーマについての研究成果をまとめた、報告「NHKアーカイブスに見る「平和のための博物館」・「平和のための戦争展」」が『政経研究』98号に掲載された。

⑤戦争末期の国策報道写真資料の歴史学的研究ー国防写真隊と東方社を中心に(科学研究費助成事業「学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))」)

東方社撮影の寄贈写真資料について、防空・疎開などの空襲関連写真の研究を進めた。国立公文書館所蔵の日本写真公社撮影の空襲や防空関係写真を収集し、研究した。

東方社撮影の寄贈写真資料について、全体の概略を明らかにするために、コマ毎のリストのもとを作成し、その撮影内容の追加記入の方針を確定した。

東久邇稔彦日記の東京空襲関係の部分を翻刻するとともに、その研究を進めた。

浜谷浩の大磯の旧宅を訪問し、東方社時代に撮影した写真、東方社時代から戦後直後にかけての撮影日誌や陸軍からの文書、写真掲載雑誌などの調査を実施した。

菊池俊吉の遺族宅を訪問し、軍学校関係などをのぞき、東方社で空襲・防空や戦時下の市民生活などを撮影した写真や文化社で戦後の暮らしなど撮影した写真のリスト作成のための調査を実施し、その後、コマ毎の仮リストを作成した。

以下の研究会を開催した。

第4回研究会 2012年4月6日

第5回研究会 2012年5月28日

第6回研究会 2012年7月30日

第7回研究会 2012年9月23日

第8回研究会 2012年11月5日

第9回研究会 2013年1月14日

第10回研究会 2013年3月4日

以下の集会で東方社撮影空襲写真について山辺昌彦が講演し、写真パネルを貸出した。

2012年6月3日 2012平和のための戦争展inよこはま

2012年6月10日 三多摩平和交流ネットワーク

以下の東方社撮影空襲写真関係の出版に協力した。

写真集『東京大空襲 未公開写真は語る』 解説執筆 本文校閲

『ドキュメント東京大空襲 発掘された583枚の未公開写真を追う』 原稿校閲

DVD『NHKスペシャル「東京大空襲 583枚の未公開写真」』 解説執筆

「東方社写真部撮影防空関係写真」、「東方社写真部撮影空襲・戦災被害写真の追加」、「日本写真公社撮影防空と空襲被害写真リスト」、「日本写真公社撮影の空襲写真」「東久邇宮稔彦の東京空襲体験と視察」、「『東久邇宮日誌』と公刊日記における空襲叙述比較」を収録した報告書『東方社と日本写真公社の防空・空襲被害写真』を2013年3月に刊行した。

井上祐子主任研究員が東方社カメラマンの別所弥八郎についての研究をまとめ、「別所弥八郎とアジア・太平洋戦争末期の「報道写真」—大陸打通作戦従軍関連写真を中心に—」を『立命館法学』345.346号(2013年3月25日刊)に発表した。

10周年記念特別展「東方社写真部が記録したアメリカ軍の無差別爆撃」は2012年4月8日に終了したが、会期中の参観者は2585人であった。

(2)2012年夏の親子企画などの開催

①「東京大空襲・戦災資料センター2012年夏の親子企画—みて!きいて!つたえよう!東京大空襲」を8月15日～19日に2階会議室で江東区教育委員会の後援を得て、開催した。空襲体験者や学童疎開体験者の話、紙芝居、朗読を開催すると共に、学童疎開関係資料の展示も実施した。参加者は377人であった。

詳細は以下の通りである。

第1回 2012年8月15日

内容 紙芝居「東京大空襲」辺見明未 作：森本栄子

学童疎開体験者のお話：小板博

第2回 2012年8月16日

内容 紙芝居「コスモス」中平順子他 作：渡辺享子

空襲体験者のお話：葉山美佐子

第3回 2012年8月17日

内容 朗読「ちいちゃんのかげおくり」広瀬未来 作：あまんきみこ

空襲体験者のお話：上原淳子

第4回 2012年8月18日

内容 紙芝居「みんなで渡った橋」大貫勝敏 作：吉村ミエ

空襲体験者のお話：正木安喜子

第5回 2012年8月19日

内容 紙芝居「あおよ、かえってこい」中平順子他 作：早乙女勝元

学童疎開体験者のお話：小林奎介

②世界の子どもの平和像設立11周年の集会在2012年5月5日に開催された。

(3)教育事業

①東洋大学から学芸員課程実務実習の学生1人を受け入れ2012年8月9～11、15～21日の期間で実施した。実習内容の詳細は以下の通りである。

1. 東京大空襲・戦災資料センターについての説明
2. 図書整理の実習
3. 受付・庶務の実習
4. 資料整理の実習
5. 夏の親子企画 紙芝居と空襲・疎開体験者の話を聞く会の運営
6. 夏の親子企画の片付け
7. 東京大空襲・戦災資料センターの特別展の展示構想の作成と発表

特別展の展示構想は「東京大空襲・朝鮮人罹災について」のテーマで作成した。

②埼玉大学経済学部のインターンシップを、学芸員課程実務実習と同時に、2012年8月10日～21日の期間に受け入れ、夏の親子企画の準備・運営・片付けに協力していただいた。

③竹園東中学校生徒1人の職場訪問を2012年7月5日に受け入れた。

④ボランティア・ガイドの研修を、募集に応募していただいた2人に対して、2012年9月26日に実施した。団体見学の案内・説明などをしていただいている。

(4)2013年第1回特別展の開催

2013年第1回特別展「空襲を伝えるドイツの都市(まち)ードレスデン・ベルリン・ハンブルク展」の準備のための制作会議を組織し、継続的に開催した。

2013年第1回特別展「空襲を伝えるドイツの都市(まち)ードレスデン・ベルリン・ハンブルク」を2階会議室で、2013年2月16日～4月7日の会期により開催した。図録を刊行した。期間中の来館者は1,524人であった。

関連して、2013年2月16日にはオープニングイベントを、3月16日には、ドイツから招いた「ドレスデン1945年2月13日グループ」のノイツナーさんの「ドレスデン空襲はいかに記録されてきたか」の講演会、3月23日には親子企画「ケストナーを知っていますか？」を、それぞれ特別展会場で開いた。

(5) 東京大空襲を語り継ぐつどいの開催

「東京大空襲を語り継ぐつどいー東京大空襲・戦災資料センター 開館11周年」をカメラホールで2013年3月9日に開催した。吉田裕氏(一橋大学教授、公益財団法人政治経済研究所評議員)の記念講演「アジア太平洋戦争と東京大空襲」のほか、横笛の演奏、体験者のはなし、空襲体験証言映像作品の上映などをおこなった。参加は335名であった。

(6) 公開研究会の開催

2013年2月23日に公開研究会を開催し、南守夫氏(元愛知教育大学教授・ドイツ現代史)の報告「空襲展示の意義と課題ー日本とドイツの空襲展示の比較を通して考える」と質疑をおこなった。

(7) 対外関係

①2012年6月30日に京都の安齋科学・平和事務所において開催された、平和のための博物館・市民ネットワーク運営委員会に山辺昌彦が参加した。

②2012年8月24日～26日に開催された、第42回「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」愛知大会に青木哲夫主任研究員と研究補助者の石橋星志氏が参加した。

③全国歴史民俗系博物館協議会に団体として加盟し、2012年6月14日に江戸東京博物館において開催された、設立集会と第1回研究集会に山辺昌彦が参加した。2012年9月12日に江戸東京博物館において開催された、全国歴史民俗系博物館協議会第1回関東ブロック集会に山辺昌彦が参加し、東京大空襲・戦災資料センターを紹介する話をした。

④2012年7月7日に朝鮮大学校において開催された、在日朝鮮人関係資料収集保存の現況と課題 シンポジウムに山辺昌彦が参加した。

⑤東京都平和祈念館(仮称)建設をすすめる会との懇談会を東京大空襲・戦災資料センターで2012年9月24日に開催した。

⑥平和のための博物館・市民ネットワーク第12回全国交流会が京都の立命館大学国際平和ミュージアムで開かれ、山辺昌彦が参加し「平和のための博物館における15年戦争関係の近年の取り組みについて」を報告した。

⑦第62次東京教研の地域実行委員会に団体として加わり、以下の実行委員会に参加した。

2012年7月25日

2012年8月30日

2012年9月20日

2012年10月31日

2012年11月22日の全体会で早乙女勝元館長が講演した。

2012年11月24日のフィールドワークは東京大空襲をテーマにするもので、下町だけでなく、山手を含む東京の区部全体を対象とする新しい試みであった。

(8) 戦災資料センターへの来館の状況

2012年度末の現在の来館者数は、開館以来は118,397人で、2012年度は12,223人であり、来館者はほぼ一昨年並に回復した。

(9) 「センターニュース」の発行

2012年7月1日に研究交流誌『戦災資料センターニュース』第21号を、2013年2月1日に第22号を、それぞれ発行した。館長の巻頭言をはじめ、研究活動・語り継ぐつどい・証言映像・ドレスデン調査のと特別展準備、夏の親子企画などの報告、来館者の声、町の戦跡紹介などを掲載した。

(10) 運営委員会の開催

以下のように運営委員会を開催した。

2012年4月24日	2012年度第1回運営委員会
2012年5月29日	2012年度第2回運営委員会
2012年6月21日	2012年度第3回運営委員会
2012年7月31日	2012年度第4回運営委員会
2012年9月24日	2012年度第5回運営委員会
2012年10月23日	2012年度第6回運営委員会
2012年11月20日	2012年度第7回運営委員会
2012年12月18日	2012年度第8回運営委員会
2013年1月21日	2012年度第9回運営委員会
2013年2月18日	2012年度第10回運営委員会

3. 「収益事業等」

当法人は、公益目的事業を財政支援するため、「目白台芙蓉ハイツ」、「チサンマンション滝野川」等に貸室を有している。しかしながら2012年度は、入居状況が不安定化し、収益が減少傾向にあった。また、建物の老朽化のための点検・修理を怠らず行い、入居者の満足度を高め、資産取得資金の適正な設定にも取り組んできた。さらに「財政検討会議」を設置するなど、収益事業のあり方を改めて検討すると同時に、会費・寄附金の増大、受託事業の拡充等、法人の財務状況の恒常的な強化策の検討に着した。

Ⅲ 業務管理

1. 会員

公益法人として当法人が持続可能となるために、当法人の社会的役割を認め、事業活動の目的に賛同される個人及び団体から会費ならびに寄附金を拠出していただいている。公益法人への移行に伴い、個人の場合は寄附金の控除が受けられ、法人の場合は通常の寄付金損金算入限度の2倍まで認められている。2012年度は会費と寄附金のあり方および募集方法の検討に着手し、当法人の活動趣旨に賛同していただき、当法人の円滑な目的遂行のため、あるいは持続・拡充のために多くの個人・団体が当法人のサポーターとして会費ならびに寄附金を拠出していただける環境整備に努めた。当法人には政治経済研究所維持会員、東京大空襲・戦災資料センター維持会員、研究会員、賛助会員の4種類の会員制度があるが、それぞれの会員数数などの趨勢は以下の通りである。

政治経済研究所維持会員

会員数は昨年度の15人を維持しているが、2010年から停滞している。当法人の活動趣旨に賛同していただき、当法人の円滑な目的遂行のため、あるいは持続・拡充のために当法人のサポーターとしての会員拡大の必要に迫られている。

戦災資料センター維持会員

2011年に1500人台を割ったが、会員の資料センターに対する理解によって2012年度（1467人）まで1400人台を維持している。

研究会員

2012年度の会員数は112人であり、数年続けて会員数は110人台を維持している。研究会員は『政経研究』の社会的使命を認め、その存続と発展のため会員制度であり、『政経研究』の発刊を持続可能なものとするためには『政経研究』の学術的な質の向上に努めることはもとより、広く会員の拡大に努めなければならない。

2. 理事会

第1回理事会 2012年4月26日

【議題】2011年度事業報告案ならびに決算案について／収益事業について／拡大研究委員会の検討結果について／公益移行記念行事について／法人全体の組織体制について／定款第29条第4項および法人法第91条第2項による代表理事、業務執行理事の職務執行状況報告

第2回理事会 2012年5月30日

【議題】2011年度事業報告案ならびに決算案について／収益事業について／拡大研究委員会の検討結果について／公益移行記念行事について／『政経研究』編集委員会規程について／その他

第3回理事会 2012年6月18日

【議題】評議員会議事進行と説明担当者について／収益事業について／公益移行記念行事について

第4回理事会 2012年9月11日

【議題】研究員・研究室制度について／公益目的事業のあり方について／収益事業について／財政検討会議の設置について

第5回理事会 2012年10月22日

【議題】2013年の役員改選について／研究員・研究室制度について／財政検討会の結果について／次回公開研究会について／収益事業について

第6回理事会 2012年11月28日

【議題】研究委員会の審議結果について／「会員に関する規程」改正について／収益事業について／業務執行報告

第7回理事会 2013年1月16日

【議題】定期提出書類について／「会員に関する規程」「寄付金取扱規程」改正について／研究委員会の検討内容について／収益事業について

第8回理事会 2013年2月15日

【議題】2013年度予算案ならびに事業計画案について／「会員に関する規程」「寄付金取扱規程」改正について／3月評議員会の日程について

第9回理事会 2013年3月27日

【議題】評議員会の進行について／新研究員について

3. 評議員会

定時評議員会 2012年6月18日

【議題】定期提出書類(事業報告書・決算書)および監査報告について／公益法人移行認定記念行事について

定時評議員会 2013年3月27日

【議題】2013年度事業計画案について／2013年度予算案について

4. 組織整備

(1) 事務局および業務執行体制

公益法人としての適格性を満たし、公益法人としての円滑な運営を図るため事務局体制の整備・強化に努めた。

(2) 調査研究体制

競争的資金制度を中心として研究開発管理に係る一連のプロセス（応募受付→審査→採択→採択課題管理→成果報告等）をオンライン化する府省横断的なシステム＝府省共通研究開発管理システムの導入など民間学術機関をめぐる環境が大きく変化しているが、民間学術機関としての当法人もこうした変化に適応すべく2012年度は機関整備に努めた。また当法人で展開されているプロジェクト研究、個人研究をさらに発展させるべく競争的研究資金である科学研究費の助成をうけるべくその申請を行った。

(3) 組織と労働環境の整備

財務状況を改善するため、所員の人權や働く環境の整備に配慮しながら冗費を削減し、業務の効率化に努めた。

以上

